

文芸 さくらがわ

俳句

〔天和俳句愛好会〕
老いの足支える杖や草枯るる

田中 はつひ

意のままの旅も早や過去草紅葉

古橋 益子

泣き笑い雨風耐へて菊咲けり

鈴木 登美子

ゆづり合ふ小径に付きし草風

皆川 和子

短日やわが身に添はず鍵いくつ

鈴木 つぎ

子に感謝湯気豊なる鍋料理

安達 幸子

秋深し感吟に酔ふ夕べかな

岩淵 のぶ子

川風に吹かれてみたり草の花

田代 てい子

被災地の復興おそく秋の雨

代田 とし

短歌

〔花の室 木崎集〕
バラ色の雲の花びら散りばめて人なきごとき
地平の夕日 塚田 沙玲

夢翔くん つかまり立ちて満一歳わが子の記
憶とミルワイユに想う 石浜 今日子

酒蔵にギターの音色が響きたりへイルカへに
酔った一夜の宴 大久保 まさ子

一葉も残さぬ大樹見あぐれば梢の間より星座
きらめく 櫻井 ハル子

亡き夫と守りきたる田荒れはつる今日は野焼
きの火を放ちたり 塩谷 明子

紋付けて姿見せたる尉びたき被災の空を越え
て来たるか 鈴木 とみ

風に乗り馬にまたがり突つばしりさい果ての
地に遊んでみたい 塚本 幸子

もみじした菊の一葉を添えし皿ぶりの塩焼き
ほかほか匂う 西岡 和子

柏崎芭蕉の句碑の冬ざれに屈みつつなでる冷
たき刻字 野村 幸男

若きらのことばの進化つむじ風「らぬき」「超
すごー」今は「すごつ」 深谷 快子

〔岩瀬短歌会〕
ひと時は寝入りしものの滾ち鳴くちろに真
夜を奪はれてをり 小林 美瑛子

今日求めしは衝動買ひかもこのセーターまた
も広げてしばしの思案 萩原 きのの

うれしいごと一時放ち浸る湯にきくともなしに
聴く憂い事 大久保 富美江

一日の時の重さよ黄の花は緑艶めく指のオク
ラに 古賀 澄

螢ひとつ算の音にいざなはれ光りていたり庭
のしげみに 滝井 幸子

さわさわと広がる青田の畦に立つ白鷺の白ひ
ときわにして 片岡 喜知子

大輪の花火の彩り消えし闇にただよふ白き残
像残りて 石田 守子

綿帽子と見紛う雲が黒雲に覆われ激しき雷雨
となりぬ 飯田 良江

くれなづむ山の端に立つ地藏仏の小さなちや
んちゃんこ赤のひと色 広沢 日出子

〔岩瀬短歌会〕
亡き吾子の使はなきままの診察着淡き水色そ
つといだきぬ 大関 節子

空仰ぎあかぎの杖を道づれに今朝も二十歩あ
ゆむ幸せ 安達 悦子

船底の如き柿の葉拾い来て野菊を添えて窓辺
に飾る 安達 すみ子

秋風にそよぐ尾花の穂の上にさまよふトンボ
の姿いとほし 角田 玉枝

妖艶に咲ける夕顔一夜花清らに照らす十六夜
の月 坪井 ゆき子

晩秋の風吹く庭にやまほうし・もみぢも負け
じと紅葉きそふ 長谷川 玲子

啄木の恋ふる古里は山うるはしく山なき私の
ふるさととは遠く 石川 喜代

10月1日オープンにつき**利用者**募集中!

3つの
特 徴

1. 桜川市**初**の日曜日営業
2. 桜川市**初**の人工炭酸泉
(導入予定)
3. 施設内床暖房完備

デイサービスセンター



TEL 0296-76-5021

〒309-1453 桜川市友部 951-1
URL: <http://kantoshigen.co.jp/~hibari/>